

小児がん緩和ケアレクチャーシリーズ 第3回

グリーフケアを考える

小児がんは80%近くが治るようになってきたと言われますが、一方で治癒が望めない疾患があるのも事実です。患児にきょうだいがいる場合は、きょうだいがきょうだいを見送ることになります。このことは、小児がんだけでなく、突然死を含めた他の疾患、事故、災害、自死、暴力などの犯罪でも起きることです。

死別体験後のケアを英語圏ではbereavement careと呼びますが、日本では死別後の悲嘆感情(grief)に焦点を当てたグリーフケアが多く使われています。

子どものグリーフケアは、アメリカオレゴン州に1982年に作られたダギーセンターが世界のモデルになっています。今回は、ダギーセンターをモデルにし、2014年からThe Egg Tree Houseたまごの家建設を目指し、子どもとその保護者のグリーフケアを始めた西尾温文氏を迎え、子どものグリーフケアのあり方について一緒に考えたいと思います。皆様ぜひ奮ってご参加下さい。

テーマ：「子どもと保護者のグリーフケアを考える」

講師：西尾温文 氏

一般社団法人The Egg Tree House 代表理事

順天堂大学医学部附属順天堂医院がん治療センター心理士

順天堂大学医学部緩和医療学研究室協力研究員

日時：2015年3月18日（水）

18:00～19:00

場所：国立成育医療研究センター 1階講堂

**参加申し込みは不要です。
直接会場にお越し下さい。**



問い合わせ先：国立成育医療研究センター 小児がん相談支援センター（担当：鈴木）

〒157-8535 東京都世田谷区大蔵2-10-1

電話: 03 (3416) 0181 (代表) FAX: 03 (5494) 7682

Eメール: suzuki-a@ncchd.go.jp

主催：独立行政法人 国立成育医療研究センター

担当：こどもサポートチーム（小児がん緩和ケアチーム）